64±19 pg/ml (Mean±S.D.) であり，血液透析患者では健常者に比し高値で，透析後低下した．Peninsula 社製抗 hANP 血清を使用し，酸・熱処理した血漿を用いる，RIA による血中 hANP 測定法の検討を行った．本測定法は精度・再現性ともに良好で，血漿の処理も容易であり，今後 hANP の生理的役割を解明する上で臨床応用上有用と考えられる．

12. 腎外傷における腎シンチグラム

頴川　晋　藤野　淡人　岩村　正嗣
池田　滋　石橋　晃　（北里大・泌）

腎外傷時における腎シンチグラムの役割，その他の画像診断法の有用性を44症例につき検討した．腎シンチグラムの利用状況としては，受傷より平均19.9日で施行されており，また，3日以内の受傷後早期での施行例は6例のみであり必ずしも緊急検査法としては用いられていなかった．また平均施行回数は1.8回，最高5回であり外傷後のフォローアップとして用いられる傾向が見られた．他検査法との比較では，有意所見を得られる率が高く，有用と思われた．バイタル変動の激しい腎外傷後早期の検査法としては，他臓器損傷の有無を検索できるCT スキャン，あるいは塞栓術などの治療に結びつく血管造影がより適するものと思われたが，その後の腎機能の追跡において腎シンチグラムは鋭敏であり，局所の血流動態，皮質機能をよく反映し，さらに機能予後のフォローアップにはきわめて有用な非侵襲性の検査法であるように思われた．

13. 骨スキャンで描出した横紋筋融解の一症例

明石　恒浩　相沢　信行　内山富士雄
原　芳邦　（茅ケ崎徳洲会病院・内）
三井　民人　（同・放）
鈴木　豊　（東海大・放）

急発症の腰痛および両下肢痛を主訴とした患者に ^{99m}Tc-MDP による全身骨スキャンを施行し圧痛を認めた両側臀部と下肢の筋群および両側腎に強い集積を認めた．CK 等の筋系逸脱酵素の異常高値より急性筋障害による横紋筋融解と診断，原因はウイルス感染あるいは特発性と考えられた．高ミオグロビン血症による腎不全は強制利尿にて防ぎつつ経過観察にて状態回復をみた．^{99m}Tc-燐酸化合物の骨外集積の機序は不明確だが細胞内のカルシウム，酵素受容体等への吸着，充血，毛細管透過性の異常等が考えられた．腎の異常集積は高ミオグロビン血症を誘因とした尿細管障害と考えられた．横紋筋融解において ^{99m}Tc-燐酸塩による骨スキャンは確定および局在診断的に有用と考えられた．

14. 大理石骨病の一例
——シンチグラム所見を中心に——

鍛　喜美恵　山岸　嘉彦　渡部　英之
佐藤　雅史　疋田　史典　篠原　義智
（日本医大・第二病院・放）
原　一郎　（同・外）

大理石骨病の59歳♂の症例を経験したので，シンチグラムを中心に報告する．

単純 X-ray においては，頭蓋冠をのぞくすべての骨にびまん性の硬化像を認めた．

シンチグラムにおいては，骨シンチで骨全体に high activity を示し，腎描出低下を認め，骨代謝が全体に亢進していると思われた．Ga シンチでは骨全体にやや high activity を示し，骨髄シンチでは，頭蓋，骨盤，腰椎の集積は良好で，腎描記は認められなかった．骨髄機能低下は，それほど著明ではないと考えられ，特に頭蓋では，X 線所見に乏しく骨シンチでは，ほとんど取り込みがなく，骨髄シンチにおいては取り込みが増加し，病変は他に比べ軽度であると考えられた．他報告を合わせ，大理石骨病の骨シンチグラフィーは，骨代謝や骨折，骨髄炎の有無，Ga シンチグラフィーでは骨髄炎の有無，さらに骨髄シンチグラフィーでは骨髄機能の程度により異なり，多彩で本疾患の病態評価にシンチグラフィーは有用であると思われた．

Presented by Medical*Online